

成人看護学 看護過程論	2年・後期	1単位	准教授 片貝智恵他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210652

1. 授業のねらい・概要

本科目は、健康障害および機能障害をもつ成人に対する看護の実践に必要なアセスメント能力と、看護過程展開の各段階において必要な援助技術を習得する。

2. 学修の到達目標

1. 事例を通して、健康障害および機能障害をもつ成人患者の看護展開方法を理解できる。
2. 看護過程展開に必要な援助技術を習得できる。
3. 主な成人期慢性疾患と急性期疾患の病態・健康障害の特徴を、日常生活に及ぼす影響を含めて理解する。

3. 授業の進め方

講義，看護過程展開演習

4. 授業計画（講義・演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	本科目の学習内容と方法， 看護過程の理解	講義	予習：基礎看護学で学んだ看護過程・情報収集・アセスメントをテキストや授業資料で確認する。 復習：看護過程・情報収集・アセスメントを整理し理解する。	片貝智恵
2	看護過程の理解	講義	予習：基礎看護学で学んだ看護計画をテキストや授業資料で確認する。 復習：ゴードンの機能的健康パターン・関連図(全体像の描写)・NANDA看護診断・看護計画を整理し理解する。	片貝
3	呼吸機能障害のある患者の看護	講義	予習：呼吸機能障害の種類と病態生理をテキストで確認する。 復習：慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態生理と治療をノートにまとめて理解する。	片貝
4	呼吸機能障害のある患者の看護	講義	予習：呼吸機能障害のアセスメントと看護をテキストで確認する。 復習：慢性閉塞性肺疾患(COPD)のアセスメントと看護をノートにまとめて理解する。	片貝
5	事例を用いた看護過程の展開 ：呼吸機能障害	講義 演習	予習：1～5回の授業内容をテキストと授業資料で確認する。 復習：情報収集を完成させる。	片貝 助手
6	事例を用いた看護過程の展開 ：呼吸機能障害	講義 演習	予習：アセスメントをテキストで確認する。 復習：仮診断とアセスメントの視点を整理する。	片貝 助手
7	事例を用いた看護過程の展開 ：呼吸機能障害	講義 演習	予習：ゴードンの機能的健康パターン1～4に関する仮診断を行う。 復習：課題レポートにゴードンの機能的健康パターン1～4のアセスメントを展開する。	片貝 助手
8	事例を用いた看護過程の展開 ：呼吸機能障害	講義 演習	予習：ゴードンの機能的健康パターン5～11に関する仮診断を行う。 復習：課題レポートにゴードンの機能的健康パターン5～11のアセスメントを展開する。	片貝 助手
9	事例を用いた看護過程の展開 ：呼吸機能障害	講義 演習	予習：関連図(全体像の描写)をテキストで確認する。 復習：課題レポートの関連図を作成する。	片貝 助手

10	事例を用いた看護過程の展開 ：呼吸機能障害	講義 演習	予習：看護計画をテキストで確認する。 復習：課題レポートの看護計画を作成する。	片貝 助手
11	代謝機能障害のある患者の看護	講義	予習：糖尿病の種類と病態生理・治療をテキストで確認する。 復習：糖尿病の日常生活への影響・看護について整理し理解する。	片貝
12	代謝機能障害のある患者の看護	講義	予習：脂質異常症と高尿酸血症の病態生理・治療をテキストで確認する。 復習：脂質異常症と高尿酸血症の日常生活への影響・看護について整理し理解する。	片貝
13	代謝機能障害・ 感覚機能障害のある患者の看護	講義	予習：視覚障害の種類と病態生理・治療をテキストで確認する。 復習：視覚障害の日常生活への影響・看護について理解する。	片貝
14	感覚機能障害のある患者の看護	講義	予習：聴覚障害の種類と病態生理・治療をテキストで確認する。 復習：聴覚障害の日常生活への影響・看護について整理し理解する。	片貝
15	感覚機能障害・口腔に障害のある患者の看護	講義	予習：口腔障害の種類と病態生理・治療をテキストで確認する。 復習：口腔障害の日常生活への影響・看護について整理し理解する。	片貝

5. 成績評価の方法・基準

評価は、定期試験（50%）、平常点・課題レポート（50%）を基準として総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：1) 山下香枝子他編著：系統看護学講座専門Ⅱ成人看護学[2]呼吸器[6]内分泌・代謝
[13]眼[14]耳鼻咽喉 [15] 歯・口腔，医学書院。

2) 永井由巳他編著：ナーシング・グラフィカ EX 疾患と看護⑥眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚，
メディカ出版。

3) 任和子他編著(2015)：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド-ヘンダーソン・
ゴードン・NANDAの枠組みによる，照林社。

4) リンダ J. カルペニート=モイエ著，新道幸恵監訳：看護診断ハンドブック，医学書院。

参考文献：随時紹介する。

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

シラバスの授業計画の範囲について，90分程度の予習と復習を必要とする。人体の構造と機能・疾病論・看護過程論等，既存の知識を必要とする。

8. 受講上の留意事項

慢性期成人看護学実習の先修科目である。

遅刻，欠席ならびに授業中の私語，授業に関係ない言動（スマホの使用等）は慎むこと。

講義時間開始後の無断での教室の入室および退出は慎むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験終了後，口頭または掲示で解答や解説を周知する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

医療機関における看護師としての実務経験を活かして，講義・演習を行う。